

ニシキゴイ コラム「衆議院中庭池と錦鯉」



錦鯉を放流する細田博之議長

衆議院内2、3階の廊下から中庭池を見下ろすと、色鮮やかな錦鯉が優雅に泳ぐ姿を見ることができます。この錦鯉は、平成24年に全日本錦鯉振興会から計30匹の寄贈を受けたことをきっかけとして飼育を開始した錦鯉です。その後、10年の時を経て、令和4年、再び同振興会から寄贈を受けることになりました。飼育していた錦鯉は引き取られ、新たに30匹の錦鯉が寄贈されています。同年10月25日には、正副議長、議院運営委員長が出席し、放流式が執り行われ

ました。現在、中庭池を泳いでいる錦鯉は「2代目」ということになります。

では、錦鯉とはどんな魚なのでしょう？

錦鯉は新潟県において、約200年前にマゴイの突然変異により誕生したとされています。現在では80種以上の品種が存在し、中庭池では「御三家」と呼ばれる代表的な品種の「紅白」、「大正三色」、「昭和三色」を中心に計11品種が飼育されています。その見た目の美しさから「泳ぐ宝石」「泳ぐ芸術品」と呼ばれ、ボスが存在せず、争いのない生態から「平和の象徴」とも言われています。また、日本観賞魚振興事業協同組合から「国魚」として認定されています。近年は海外で特に人気があり、品評会で優勝した錦鯉ともなると、数千万円で取引され、平成30年のオークションでは約2億円で落札されたこともあります。



写真は中庭池で飼育中の錦鯉
(左) 紅白 (中) 大正三色
(右) 昭和三色

錦鯉は国内外でその価値が認められ、愛されているのです。



中庭池噴水口の獅子の彫刻

中庭池にお越しになられた際には、錦鯉だけでなく中庭池噴水口の獅子の彫刻にも注目してください。よく見るとその表情がそれぞれ異なっています。これは、一説によると「民意はひとりひとり違う」という民主主義を表していると言われています。

お時間がある際には、「国魚」錦鯉が泳ぐ中庭池に足を運んで、是非近くでご覧になってはいかがでしょうか？

(参考：政府広報オンライン英語版HP、新潟県HP、全日本錦鯉振興会HP、
「月刊錦鯉 2022年12月号」(錦彩出版)、
「世界初「錦鯉サミット」11月に新潟で開催 盛況な国際市場で存在感示す」
(産経新聞 2022年10月24日付))

コラム「議会のジェンダー配慮への評価に関するアンケート調査」

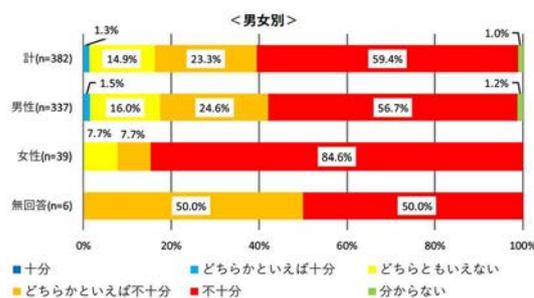


報告書

衆議院議院運営委員会(委員長:山口俊一衆議院議員)理事会は、我が国の議会におけるジェンダー平等の現状を把握するため、令和4年4月下旬から5月にかけて、憲政史上初とも言われる全衆議院議員を対象とした「IPUジェンダー自己評価『議会のジェンダー配慮への評価に関するアンケート調査』」を実施しました。また同時に、衆議院議員が所属する政党(自由民主党・立憲民主党・日本維新の会・公明党・国民民主党・日本共産党・れいわ新選組・社会民主党の8党)向けのアンケート調査も行い、これらの調査結果を取りまとめた報告書(資料編を含めて全337頁)を、同年6月9日に公表しました。

同報告書によれば、議員アンケートは無記名で行われ、設問は全58問(選択式設問39問/自由回答式設問19問)、465名中382名が回答し、82.2%の回答率でした。なお、議院運営委員会の代表理事による協議に基づき、政党別の集計は行わず、性別、年代別の集計結果が取りまとめられています。政党向けアンケートは全19問(選択式設問11問/自由回答式設問8問)で、8党全ての政党が回答しました。こちらも政党別の集計は行われていません。

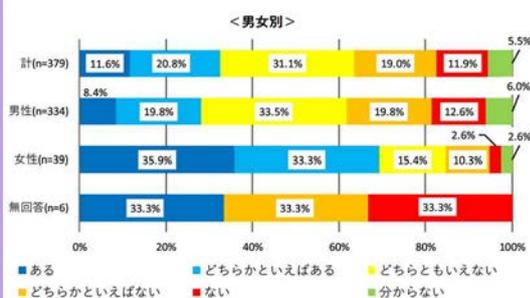
議員アンケートの調査結果を見ると、問1「現在の国会における女性議員の数は十分と考えますか。」との設問について、全体で59.4%の議員が不十分と回答していますが、男女別では、男性議員の56.7%に対し、女性議員は84.6%が不十分と回答しており、男女の回答に差が見られます。



議員アンケート問1 (男女別の結果)

また、問3「国会への女性の参画拡大は妨げられていると思いますか。」との設問についても、「そう思う・どちらかといえばそう思う」との回答をした男性議員は合わせて45.4%である一方、女性議員は71.8%で、26.4%の差がありました。

さらに、問30「国会内で、女性に対する差別的な固定観念が存在すると感じることがありますか。」との設問については、「ある・どちらかといえばある」との回答をした男性議員が合わせて28.2%である一方、女性議員は69.2%で、41%の差がありました。



議員アンケート問30 (男女別の結果)

なお、自由回答式設問では、アンケート調査が無記名で行われたということもあり、現時点での議員の真の声が反映されているように見受けられます。

この報告書は、衆議院ホームページに公開されており、誰でも見られるようになっています。

https://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_rchome.nsf/html/rchome/Shiryo/gender-houkokushohp20220609.htm

コラム「本会議場の議席」

衆議院本会議場において、中央の議長席を中心に扇状に並んでいるのが議席です。現在は、480席が設置されており、設計上は最大635席まで拡張できるとされています。

議席は、先例により、議長席から見て所属議員の多い会派の順に右から左へと並んでいます。会派内での議席の並びは、各会派からの申出に基づき決められています。なお、おおむね、各会派とも当選回数の少ない順に前から後ろへと議席が指定されています。

この議席部分には、本院議員の外、議事部議事課職員などの定められた僅かな人以外は入場できないことになっています。

議席を詳しく見てみましょう。机と椅子はいずれも桜の木でできています。机上には、黒漆塗りの檜材の四角柱に白エナメルで議員の氏名を記した氏名標があります。これは議員が出席した際に自分で立てるものです。氏名標は再利用されており、漆で上塗りした後、新たな当選議員の名前が書かれます。



衆議院本会議場



木札の名刺

白票が右側に、青票が左側に入っている

氏名標を立てると、その下の溝には、白色と青緑色の木札の名刺が6枚ずつ入っています。これは記名投票などを行う際に使用する白票と青票です。檜材でできており、白票には墨汁で、青票には朱墨で議員の氏名が書かれています。

「記名投票を行う場合には、問題を可とする議員は白票を、問題を否とする議員は青票を投票箱に投入する」（衆議院規則第153条）とされ、白票が賛成、青票が反対を表します。

賛成に白票、反対に青票を用いる由来は、日本が明治23年に帝国議會を開設した頃、既にフランスの議會において採用されていたものを取り入れたとする説が有力とされています。

議席の椅子の下には、防災ヘルメットが設置されています。昭和53年に「大規模地震対策特別措置法」が制定されたのを受け、昭和61年に防災頭巾が設置され、その後、安全性の観点から頭巾の代わりにヘルメットが導入されました。着訓練は過去3回行われており、直近では令和4年3月10日に行われました。



防災ヘルメット

(参考：「移りゆく白亜の議事堂 国会議事堂新ガイドブック」（一般社団法人衆栄会）
「議場揺れたら防災ヘル」（読売新聞 2022年3月11日付）

コラム「議員会館の会議室」

国会議員の主な活動は国会で法律案や政策について議論を交わすことですが、国会議事堂の裏手にある議員会館でも、議員同士や関係団体等との会合を開いて政策の在り方について日々議論が行われています。

そのため、議員会館には、議員事務室のほか多様な会議室が設置されています。

「国際会議室」



国際会議室には、大型スクリーンなどの機材が設置されており、オンライン映像などを映すことができます。また、会場を見下ろせる場所に通訳ブースが6室あり、最大6か国語の同時通訳が可能となっています。

この国際会議室は、原則として衆議院又は衆議院議員が主催する国際会議等の場合に限り使用できます。

「多目的ホール」

多目的ホールは、演台があり、間仕切りを使用することで会場の大きさも変更できるなど、使い勝手の良い会議室です。

国際会議室をメイン会場に、多目的ホールをサブ会場として使用することもできます。議員同士による会合等でも使用できますが、国際会議等のために国際会議室と併せて使用することが優先されています。



これらの会議室については、令和4年3月23日、ヴォロディミール・オレクサンドロヴィチ・ゼレンスキー・ウクライナ大統領による国会演説（オンライン）が行われた際に、日本側の会場として使用されました。

「特別室」

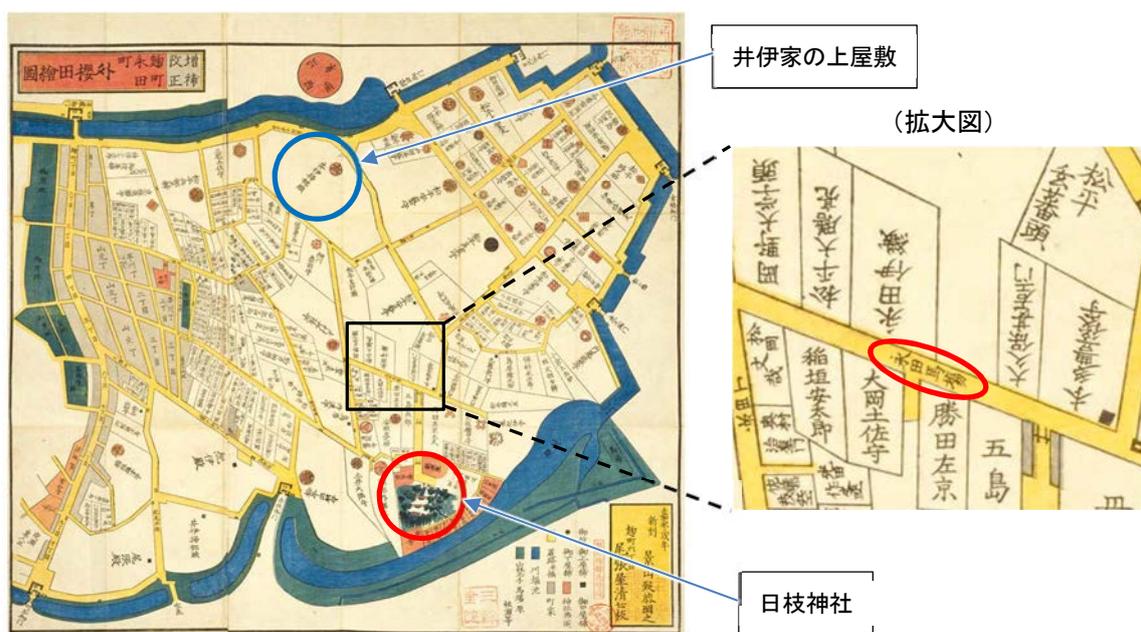
外国の要人との会合等では、控室として特別室が使用されることもあります。

特別室には洋室・和室がありますが、和室の方は掘りごたつ式となっており、外国の方の身長に合わせて少し深めに作られています。また、座卓は漆塗りのヒノキの一枚板が使われています。使用する際は、床の間に季節の生け花や掛け軸などが飾られ、海外との文化交流に一役買っています。



コラム「永田町の歴史」

「永田町」と言えば、現在では国会の代名詞ですが、その地名の由来をご存知でしょうか。江戸時代、この辺り一帯は武家地となっており、馬場のあった道筋に永田姓の旗本屋敷が並んでいたため、「永田馬場」と呼ばれていたことが町名の由来とされています。正式には明治5（1872）年に「永田町」となりましたが、江戸時代中期頃から「永田町」と呼ばれ始めていたそうです。下の古地図（以下「絵図」）は、江戸時代に「外櫻田」と呼ばれていた麴町・永田町・霞が関界隈（そとさくらだ）のもので、嘉永3（1850）年に描かれました。その中には、「永田馬場」の地名も記されています（現在の国会議事堂と議員会館の間の道路の辺りと推測されます）。



江戸切絵図「外櫻田永田町絵図」（国立国会図書館）

絵図を見ると、真ん中やや右下に目を引く緑色の部分があります。今も永田町に鎮座する日枝神社です。万治2（1659）年、半蔵御門外（今の国立劇場の辺り）からこの地に移ってきました。

そして、絵図でもう一つ目立つのが、広大な敷地の大名の上屋敷です。例えば、絵図の真ん中上の方には、大老井伊直弼で有名な彦根藩井伊家の上屋敷があります。ここは、現在、新たな国立公文書館と憲政記念館の合築施設を建設中の場所ですが、明治時代は陸軍省や参謀本部が置かれました。その後、近隣に国会議事堂が完成したのは昭和11（1936）年です。建築期間17年間（大正9（1920）年～昭和11（1936）年）に及ぶ大工事でした。

最後に、現在の永田町についてもご紹介します。「永田町の住人」というと、国会議員や秘書などを指す言葉としても使いますが、文字通り、実際に住んでいる「永田町の住人」もいらっしゃいます。現在の永田町の人口は570人（令和4年11月1日現在）で、日枝神社の山王祭への参加など、町会活動も活発に行われています。様々な歴史を刻んできたこの土地にも、政治の中核としての顔だけではなく、いろいろな顔があるのですね。

（参考：千代田区HP、衆議院HP）